

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	嬉野市立吉田小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携では「吉田メソッド」の活用「4・3・2」のブロック制に取り組んでいる。合同体育大会やブロック集会、グリーン大作戦等、意欲的に活動できた。小中合同校内研修や授業研究会の相互参観等無理がないように進めていきたい。 ・いじめの早期発見、早期対応について、保護者からの肯定的な評価が90%を越え評価が高かった。また、児童生徒が夢や目標をもちその実現に向け意欲的に取り組むことができています。児童の安心して過ごせる学校や集団を作っていくたい。 ・地域と協力した教育実践では、「吉田学」での学びを家庭や地域に発信しながら進めてきた。今年度も「吉田おうえんたい」の方々と連携した活動を進めていくことで、地域を愛する児童を育成していきたい。 ・月の時間外在校等時間が4.5時間を超えない職員が100パーセントで、働き方改革への意識が高まっている。更に進めていきたい。
2 学校教育目標	「かしこく、やさしく、たくましい、吉田っ子の育成」 ～ 地域とともに、9カ年の学びのなかで ～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成「かしこさ」 ・豊かな心の育成「やさしさ」 ・たくましい心身の育成「たくましさ」 ・小中一貫教育並びに地域とともにある学校づくりの推進 ・働きやすい職場環境づくりの推進

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			中間評価	5 最終評価	学校関係者評価	主な担当者			
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	達成度(評価)			実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童が集中して学び合う授業づくり	○単元構成を工夫して、子どもが主体となって活動する時間60%以上できたと回答する教職員70%。 ○吉田メソッドを活用し、伝え合い活動を工夫し、充実させ、自信をもって「できた」と回答した児童を50%以上にする。	B	・伝え合い活動で自信をもってできた児童が48.4%である。目標の50%までと少し。友だちタイムの前には自分の考えをもたせたり、書かせたりして自信をもってできるようにしていく。 ・単元ごとに振り返りの時間を設け、1回以上は文章で表現することができている。	B	・単元構成を工夫して、子どもが主体となって活動する時間60%以上できたと回答する教職員が85%を超えている。 ・教師の友達タイムの設定や活性化への取り組みや意識は向上しているが、自信をもって発表できた回答する児童の割合が前回より低下している。児童が自信をもてるような声かけや工夫が必要である。	A	・児童が学習することの喜びや楽しさが芽生えるような授業の工夫をしてほしい。 ・単元構成を工夫して、子どもが主体となって活動する時間が60%以上できたと回答する教職員が85%おり素晴らしい。子供が主体となる授業を進めてほしい。 ・児童の「自信をもって発表できたが実感している児童が少ないのが気になる。児童に寄り添い「自信」と「実感」が持てるように支援してほしい。	研究主任 かしこい子PJ
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「児童の豊かな心を育むために、道徳科の授業、人権学習の内容を理解している」と回答した保護者を60%	A	・「児童の豊かな心を育むために、道徳科の授業、人権学習の内容を理解している」と回答した保護者が98.2%いた。継続して、道徳科の授業、人権学習の内容を充実させていく。また、心のアンケートを行い、いじめの早期発見、早期対応を行う。いじめが発生した場合は、家庭と連携しながらいじめの解消に向けた取り組みを推進する。	A	・「児童の豊かな心を育むために、道徳科の授業、人権学習の内容を理解している」と回答した保護者は93.9%。中間評価から下がった理由として、学校の活動や様子知らない保護者がいらつやと考えた。そのため、道徳科以外にも学校や学級のお便り等で定期的に伝えていくことが大切である。	A	・弱者や困っている人を助けることができる児童を育成してほしい。豊かな心を育むために道徳科の授業や人権学習を定期的に情宣することで保護者の信頼も得られる。 ・いじめは潜在化するので、細やかな観察、子供に寄り添った指導、支援をしてほしい。 ・いじめの未然防止や早期発見早期対応をすることは大切だ。SNSやインターネット上のいじめが行われていると聞く。情報モラル教育を小学校から行うことの必要性を感じる。	道徳科主任 人権教育担当 やさしい子PJ
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みを実践している。」と回答した保護者80%	A	・「学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みを実践している。」と回答した保護者が96.5%いた。継続して、学校便りや学級通信、学校HP等を通じて、いじめの未然防止に向けた授業実践を発信していく。また、心のアンケートを行い、いじめの早期発見、早期対応を行う。いじめが発生した場合は、家庭と連携しながらいじめの解消に向けた取り組みを推進する。	B	・「学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みを実践している」と回答した保護者が89.8%いた。中間評価から下がった理由として、子供の心を心配していることが考えられる。家庭と定期的に連絡を取り、児童の様子を伺ったり、伝えたりすることが大切である。	A	・先生に認められ、褒められることで児童は成長すると思う。これからは機会を捉え、どんどん褒めてほしい。 ・夢ハシカチは素敵な取り組みだ。児童の作品が年々レベルアップしている。夢ハシカチを中央廊下に掲示し児童が目にするように、キャリア教育にもなっている。	たくましい子PJ
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒92%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒92%以上	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は、88.7%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答した児童は87.1%だった。 ・どちらも目標を上回った。今後夢ハシカチ提示後、スピーチタイムや目標のテーマを「将来や目標」に設定するように、呼びかけを行いたい。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は、91.4%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答した児童は94.8%だった。 ・どちらも目標を上回った。上回った理由として、後期は夢について考える機会が多く、頻りに呼びかけすることが多かったことが考えられる。	A	・友達のよいところを見つけることができた回答した児童が91.4%いた。中間評価から下がった理由として、友達のよいところを見つける取組が少ないことが考えられる。そのため、ありがたの手紙を書き、放送で紹介する取組と学級活動で児童の良さに気づいたり見つけたりする取組をいっていくことが大切である。	やさしい子PJ
●健康・体づくり	○自他のよさを認め自己肯定感を高める取り組みの充実	○友達の良いところを見つけることができた回答した児童80%以上	A	・「友達のよいところを見つけることができた」と回答した児童が98.4%いた。継続して、ありがたの手紙を書き、放送で紹介する取組を行う。	A	・「友達のよいところを見つけることができた」と回答した児童が91.4%いた。中間評価から下がった理由として、友達のよいところを見つける取組が少ないことが考えられる。そのため、ありがたの手紙を書き、放送で紹介する取組と学級活動で児童の良さに気づいたり見つけたりする取組をいっていくことが大切である。	A	・先生のよいところを見つけることができた回答した児童が91.4%いた。中間評価から下がった理由として、友達のよいところを見つける取組が少ないことが考えられる。そのため、ありがたの手紙を書き、放送で紹介する取組と学級活動で児童の良さに気づいたり見つけたりする取組をいっていくことが大切である。	たくましい子PJ
	①運動習慣の改善や定着化	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒60%以上	A	・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童は80.7%で、目標を大きく上回った。 ・外に出ることができるときは、体づくり委員会や外遊びをするように呼びかけている。今後も継続していく。	A	・「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童は72.4%で、目標を上回ったが、中間評価からは下がった。 ・下がった理由として、気温が下がりに外に出る児童が減ったことが考えられる。今後も、児童が外に出るようなクラスや学校での取り組みが必要だと考える。	A	・小学生の時は体をしっかり動かして鍛えることが大切だ。外遊びを奨励し、習慣となればよいと思う。 ・たくさん児童が異学年の友達と運動場で遊んでいる。外遊びが苦手な児童への取り組みがあればありがたい。	たくましい子PJ
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	B	・「毎週定時退勤日を、月に一度完全定時退勤日を設け、職員の帰宅を促す。 ・学校行事の精選をさらに進めていく。 ・長期休業の研修計画を工夫し、年次休暇が取りやすいようにする。	B	・「職員の時間外在校時間の平均は月23時間。教育委員会が掲げる上限を下回っている。 ・年次休暇の平均取得日数は9.5日。長期休業中の年次休暇取得をさらにすすめていきたい。	B	・「職員の時間外在校時間の平均は月23時間。月20時間を目標にしていきたい。 ・年次休暇の平均取得日数は11.6日。平日の年次休暇が増えている。長期休業で取得できるように進めていく。	教頭
	○働きやすい職場づくり	○管理職や同僚に気軽に相談することができた回答する職員の割合が90%以上 ○お互い助け合いながら仕事できた回答する職員90%以上	A	・「日々の活動について、学年Gやプロジェクト、管理職等に相談しながら進めていく。困っていたり悩んでいたたりする職員に声をかけたり管理職に報告したりする。	A	・「管理職に相談しやすい」と回答した職員は100%だった。また互いに助け合いながら仕事ができている職員は91.9%だった。お互いの仕事を掛けあわせたりして進めていくよう声をかけたい。	A	・「管理職に相談しやすい」と回答した職員は100%だった。互いに助け合いながら仕事ができている職員も100%だった。お互い声を掛けあわせたりして進めていくよう声をかけたい。	教頭
●特別支援教育の充実	○個のニーズに応じた特別支援教育の推進	○「個のニーズに応じた特別支援教育の推進ができた」と回答した職員90%	B	・「必要に応じて、個別的教育支援計画を立てたり、ケース会議を開いたりして、児童の個別の課題に対応することができた。 ・関係機関と連絡を取ったり、専門的な講師を招聘したりしてきてが、更に全職員の意識を高める研修をした。	A	・「必要に応じて、個別的教育支援計画を立てたり、ケース会議を開いたりして、児童の個別の課題に対応することができた。 ・関係機関と連絡を取ったり、専門的な講師を招聘したりしてきてが、更に全職員の意識を高める研修をした。	A	・特別支援に関する知識をもって児童に接することはとても大切である。児童の個性を大切にする教育やインクルーシブ教育となつてほしい。 ・少人数だからこそ「個のニーズ」を把握し、対応してもらいたい。	特別支援教育CO たくましい子P
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者	
○小中一貫教育の推進	○9カ年の学びの連続を意識した中学校との一貫教育の充実	○小中一貫教育を意識して、各活動に取り組んだと回答する教師90パーセント以上	B	・Ⅱ期ブロックは中学生との交流ができているが、それ以外のブロックでは交流が少ない。 ・校内研で小中の課題や現状を出し合い、互いにアイデアや意見を出して解決方法を考えた。 ・小中一貫教育を意識して取り組んでいる職員は91%。	B	・Ⅱ期ブロックの集会和大きな行事、職員間の研修は合同の取り組みができている。また指導方法についての共有理解や連携は進んでいる面があった。 ・小中一貫教育を意識して取り組んでいる職員は93%。 ・小中連携に関する保護者の評価は昨年より落ちてきている。	B	・小中連携は吉田小中学校ならではの取り組み。両校で、目標を常に確認しあうことが重要だと思う。 ・小中連携はあらゆる場面で進めることができる。様々な機会や方法で保護者に情宣したほうが良い。	教頭 教務主任 研究主任
○地域と共にある学校づくり	○郷土愛を育む「吉田学」の推進	○「吉田学」での学びを各学年で実施することできた回答する教師90%以上	B	・「吉田学」での学びを実施し、その学びを発信することができた回答している職員は64%だった。地域学習やSDGsを意欲的に単元づくりや授業づくりを促していく必要がある。	A	・「吉田学」での学びを実施し、その学びを発信することができた回答している職員は92.8%だった。後期には生活科や総合学習で地域学習を行い、地域の良さやSDGsについて発信することができた。	A	・郷土を愛する心を育てるために、地域学習はとて有効。地域と連携しながらたくさんの子供を学ばせたい。地域と連携しながらたくさんの子供を学ばせたい。地域と連携しながらたくさんの子供を学ばせたい。	教頭 教務主任
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携では「吉田メソッド」の活用「4・3・2」のブロック制に取り組んでいる。合同体育大会やブロック集会等、意欲的に活動できた。小中合同校内研修や授業研究会の相互参観等、両校の学びにつなげながらも無理がないように進めていきたい。 ・いじめの早期発見、早期対応については、最終評価で若干ポイントを下落したが、保護者から肯定的な評価をいただいた。児童生徒が夢や目標をもちその実現に向け意欲的に取り組むことができています。児童が安心して過ごせる学校や集団を作っていくたい。 ・地域と協力した教育実践では、「吉田学」を進め、学んだことを家庭や地域に発信していき。今年度も「吉田おうえんたい」の方々と連携した活動を進めていき、地域を愛する児童を育成していきたい。 ・月の時間外在校等時間が昨年度比30パーセント程度減少しており、働き方改革への意識が高まっている。働き方を考えるときにも「働きがい」を感じることができるようしていきたい。 								